

# ニュースリリース

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会  
こども育成課  
～街とともに 未来を育む 人づくり～

## 「じどうかん あそびのマルシェ inななお」



## 能登半島地震における子どもの居場所支援へ

札幌市児童会館・ミニ児童会館を管理運営している(公財)さっぽろ青少年女性活動協会こども育成課では、東日本大震災、北海道胆振東部地震をはじめ、被災地の児童館や子どもたちへの支援活動に取り組んでいます。今回は、年初に発生しました能登半島地震における支援事業の様子をお伝えします。



準備をした子どもたちのメッセージを添えて届けました。



会場となった七尾館は震災の影響で1か月の休館を経て、安全に考慮しながら限定的に運営再開しています。

「じどうかん あそびのマルシェinななお」は、石川県立大型児童館「いしかわ子ども交流センター七尾館」を会場に3月23日(土)24日(日)の2日間に渡って開催されました。主催する児童健全育成推進財団の呼びかけに賛同した全国の児童館職員が集い、子どもたちを支援するための遊びのプログラムを実施しました。

札幌市児童会館からは職員2名を派遣し、会館の子どもたちと一緒に準備した「ばんぶんゴマ」などの工作キットを持ち込むとともに、子どもの専門職としてのスキルを生かし遊びを通じて子どもの心理的ケアにあたりました。

両日とも100人近くの親子連れが来場し、工作や外での運動遊びに興じ大盛況でした。お子さんが避難所となっている小学校に通う保護者からは、「学校は再開したものの、運動遊びができていなかったので子どもが歓声を上げ遊ぶ姿や笑顔を見られて、親としても嬉しい」という感想が聞かれました。

時間とともに復旧は進んでいますが、子どもや保護者の気持ちにそった支援は必要な状況です。そして、そこに私たちができる支援の形があります。

3月末現在、能登地方では、避難所や支援施設に活用されているため児童館としての再開の目途が立っていない児童施設があります。震災時に子どもの居場所を確保し、どう健全育成を維持するかという課題が生じています。

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会こども育成課では、被災地の児童館が遊びや体験活動を展開し、心身共に拠り所としての子どもの居場所となるよう、私たちが今できることを子どもたちと一緒に考えながら、児童会館として専門的スキルを生かした継続的な支援に取り組んでいきます。



### <(公財)さっぽろ青少年女性活動協会>

札幌市児童会館、ミニ児童会館をはじめ、こどもの劇場やまびこ座・こども人形劇場こぐま座、若者活動センター・若者支援総合センター、札幌Lプラザ公共4施設、青少年山の家、定山溪自然の村、北方自然教育園、千歳市児童館・学童クラブの管理運営をとおして、「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」を実現していきます。

### <本件に関するお問い合わせ先>

こども育成課 担当 細川 ikuseika-release@syaa.or.jp TEL011-671-4121  
(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10  
<HPアドレス> <http://g-kan.syaa.or.jp>

